

学年経営案 令和7年度 第2学年経営方針

1 本校の教育目標

知・徳・体のバランスのとれた教育活動を展開し、生徒一人ひとりに「生きる力」を育むとともに、家庭や地域に信頼される学校を目指し、次の教育目標を設定する。

勤勉	…	よく考え正しく判断できる人間
敬愛	…	人を尊敬し愛しいつくしみのある人間
至誠	…	誠実で責任感の強い人間
健康	…	健康で心身ともにたくましい人間

2 学年目標

可能性を広げられる集団になる

- | |
|--|
| (1) 授業を通して主体的に考え、仲間と対話しながら考えを深められる生徒 |
| (2) 集団としての規範意識、仲間への思いやりの心をもった生徒 |
| (3) 日々の学校生活や行事を通して、協力して課題を解決することができる生徒 |

3 学年経営の基本方針

生徒一人ひとりが安心して生活でき、個性を伸長できる学年を実現するため、集団生活や授業の規律を徹底する。中堅学年としての自覚をもち、さまざまなことに挑戦できるよう学年の教員が一致団結して指導にあたる。

- (1) 学習・生活の両面で、中学校生活の基礎となる規律を徹底する。
- (2) 生徒の発達段階を理解し、全員が最後までやりきることを指導する。
- (3) 学年全体で指導にあたるように、情報交換を欠かさない。
- (4) 保護者や外部機関との連絡を密にし、信頼を深める努力をする。

4 指導の重点及び具体策

(1) 各教科、道徳、特別活動・総合的な学習の時間

①各教科

基礎的・基本的な知識・技能の定着と授業規律の徹底を重点とする。また、家庭学習の定着化と学習方法の確立を目指し、教科担当者だけでなく学年の教員全員で指導する体制をつくる。

・授業規律の徹底

忘れ物をしない、聴く態度を身につける、課題に真剣に取り組む、提出物を出す、積極的に発言する。

・授業の見通しをもたせる

生徒が「単元」と「その日の授業」の見通しをもち、「何ができるようになるか」を理解してうえで学べる授業を構成する。

・家庭学習の習慣づけ

予習、復習を促し、学習計画表を用いて、家庭学習の充実を図る。

②道徳

道徳の時間を中心に、学校の教育活動全体を通して推進する。

・道徳の授業の充実

年間指導計画をもとに、よりよい生き方を考え行動できるよう指導する。

③特別活動

礼儀正しく、自ら行動できる集団作りを目指して指導を行う。

ア 学級活動

- ・一人ひとりが役割を持ち、責任を持って最後までやりぬけるよう指導する
- ・自分の意見を発表し、相手の意見を聞くことが出来る集団をつくる
- ・自分の居場所があり、気持ちよく生活できる場所をつくる

イ 生徒会活動

- ・生徒会活動、委員会、行事へ積極的に参加するよう指導する
- ・専門委員会活動の役割を認識させ、参加と協力を促す

ウ 学校・学年行事

- ・行事の意義を知り、積極的に参加させることで達成感を持たせる
- ・卒業までを見通した行事への取り組みを行う

④総合的な学習の時間

自らテーマを設定し、まとめを行い発表するなど、知識を総合的にまとめて伝えることを目標とした指導を行う

ア 体験的な活動の充実

- ・校外学習やキャリア教育を実施する

イ 卒業までを見通した継続的な指導を実践する

(2) 生活指導・進路指導等

①生活指導

他者に対し思いやりの心を持ち、安心して生活できる集団の中で互いに刺激し合いながら、自身の興味・関心を広げたり、個性を伸ばしたりできるよう指導する。

ア 生徒理解と心の指導

- ・生徒一人ひとりに声をかけ、個に応じた柔軟な対応を心がける
- ・問題行動の早期発見と教員による同歩調での対応、情報交換を行う
- ・スクールカウンセラーや学習支援室、外部機関との連絡を密にする

イ 個性の伸長

- ・褒める指導で自尊感情を高める
- ・自身の考えを安心して表現できる雰囲気づくり

ウ いじめの根絶を目指した指導

- ・思いやりのある心の育成
- ・情報社会におけるルールやマナーを守る意識の醸成

エ 不登校傾向の生徒への対応と教育相談

- ・実態の把握と長期的な見通しの中での対応
- ・学習支援室との連携

②進路指導

進路指導は「自らの生き方を考える」ものとし、自分の進路を切り開いていく力を養う。

ア 卒業までを見通した計画的な指導

- ・自分自身の興味や特長を知り、将来の希望や進路を考える。

イ 自分の能力をさらに高め、将来にわたって学習することの意義を考える。

- ・上級学校調べ学習
- ・「職場体験」の実施